

令和6年度病害虫発生予察情報

注意報 第1号

令和6年7月12日

青森県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。
出穂7日前までの草刈りと出穂後の薬剤防除を徹底してください。
水稻の生育も早まっているため、早めに作業を行いましょう。

病害虫名 斑点米カメムシ類
(アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)

作物名 水 稲

1 発生地域 県内全域

2 発生量 多 い

3 注意報の発生根拠

(1) 県内3か所(青森、木造、八戸)における予察灯の平均誘殺数は、アカヒゲホソミドリカスミカメが7月1半旬に85頭、7月2半旬に106頭で、それぞれ平年の21頭、50頭を大きく上回った(図1左)。アカスジカスミカメについても、6月2半旬以降の誘殺数が平年より多く推移している(図1右)。

(2) 7月上旬に実施した地区予察ほ場における畦畔のすくい取り調査では、アカヒゲホソミドリカスミカメが木造で182頭(平年15頭)、七戸で33頭(平年1頭)、アカスジカスミカメが木造で35頭(平年3頭)、鶴田で24頭(平年0頭)と平年を大幅に上回った(図2)。

(3) 7月11日発表の「向こう1か月の天候の見通し」では、気温が平年より高い見込みであり、斑点米カメムシ類の発生に好適な気象条件が続くと予想される。

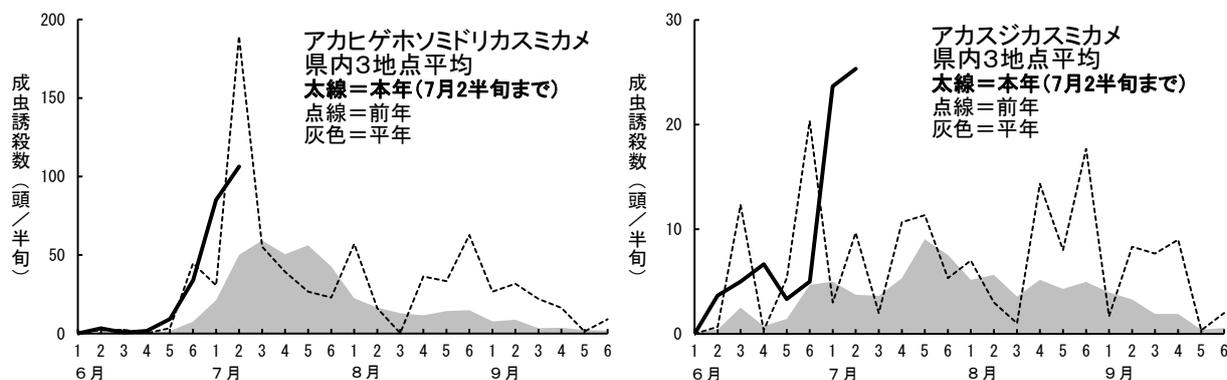


図1 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺状況

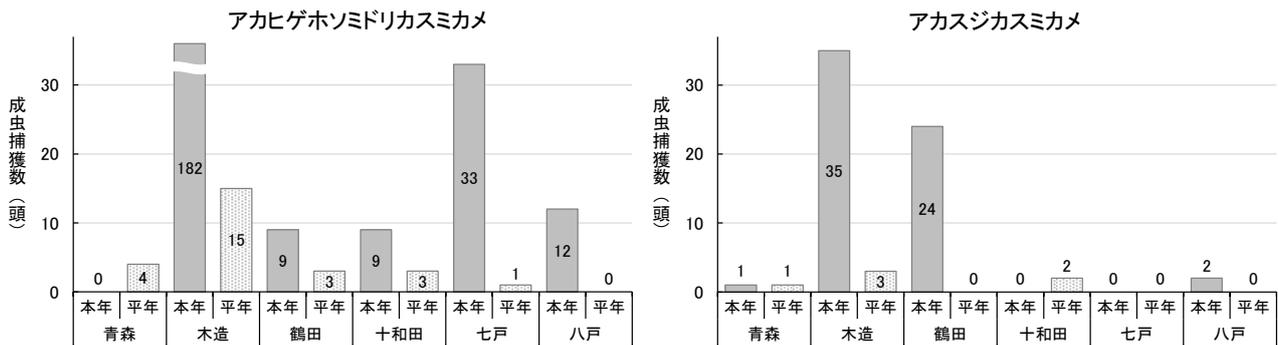


図2 7月上旬における地区予察ほ場畦畔での斑点米カメムシ類の捕獲数

4 防除方法

(1) 除草による耕種的防除

- ア 畦畔の草刈りは出穂7日前までに終わる。また、水稻の生育は早いところで平年より5～6日程度進んでいるため、遅れずに作業を終える。詳しい出穂期の予測は、青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」の水稻生育予測 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/predict>) で確認する。
- イ やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合、残効性が高い薬剤は散布直前から1週間以内、それ以外は散布後速やかに行う。
- ウ ノビエ、ホタルイ及びシズイは斑点米カメムシ類の発生源となるので、水田内の除草を徹底する。
- エ なお、畦畔のすくい取り調査で捕獲数の多かったほ場は、いずれも除草後にイネ科雑草が再生、出穂していたほ場であった。気温が高いと雑草の生育も早まることから、こまめに除草を行ってイネ科雑草の再生を防止し、増殖源の除去に努める。

(2) 薬剤による防除

- ア 薬剤により散布適期、散布回数が異なることに留意し、適期防除に努める。
- イ 多発が見込まれる水田では、最終散布の7～10日後に追加防除を行う。

【1回散布を基本とする方法】(残効性の高い薬剤を使用)

薬剤名	IRACコード [※]	有効成分	使用回数	散布時期
キラップ	2 B	エチプロール	2回以内	穂揃期～穂揃7日後
スタークル	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
アルバリン	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
エクシード	4 C	スルホキサフロル	3回以内	穂揃7～10日後

【2回散布を基本とする方法】(上記以外の薬剤)

薬剤名	IRACコード [※]	有効成分	使用回数	散布時期
エルサン	1 B	PAP	2回以内	1回目：穂揃期 2回目：穂揃7～10日後
スミチオン	1 B	MEP	2回以内	
トレボン	3 A	エトフェンプロックス	3回以内	

注)「青天の霹靂」、「青森クリーンライス」などの生産に当たっては、栽培基準を確認し薬剤を使用する。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

————— 農薬を使用する際は必ず最新の農薬登録情報を確認してください —————

農林水産省「農薬情報」 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>

～青森県農薬危害防止運動展開中！（6月1日～8月31日）～

- 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しよう！
- 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散させないようにしよう！

【問合せ先】 青森県病害虫防除所
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
E-mail byogaichu@pref.aomori.lg.jp

※当情報は青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」
(<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。